

プラットフォームをつくる

——日外協「海外健康・医療センター」の役割

2022年度の取り組みは何か。それぞれの目標と狙いは。

ネットワークで新しい価値を

この2年半、世界中に広まった新型コロナウイルス感染症によって、日本企業の海外赴任者やその帯同家族、海外出張者も国内外での自粛生活を余儀なくされてきた。渡航制限で現地への赴任や帰国が制約を受けることにより肉体的・精神的ストレスが重なる。慢性疾患のある人は赴任停止・強制帰国などによりさらにストレスが増える。

コロナ禍の影響で海外赴任者とその帯同家族、海外出張者への健康・医療面のサポートが従来以上に必要とされている。ウィズコロナ時代における海外赴任者・出張者の健康管理対策がますます重要になっていることを再認識しなければならない。

会員企業各社は海外に社員を送り出す立場にあり、その社員・帯同家族の健康管理に携わっている。日外協はそのサポートとして、海外勤務者の健康維持・管理に関する各社の課題、取り組みなどについてネットワークづくりと情報交換のためのプラットフォームを構築。会員企業が安心してグローバル活動に専念できる環境を提供する。

必要な情報をタイムリーに

セミナーと研究会活動を両輪に以下の取り組みを行う。

海外健康・医療セミナー

会員企業の医療職（産業医、保健師、看護師）および海外赴任者・出張者の健康管理に携わる

事務職（国際人事、健康管理部門）を対象にセミナーを実施する。

扱うテーマは、今後のウィズコロナ時代における海外勤務者の健康管理、コロナ禍の影響で赴任先での仕事や生活でストレスを抱えた社員および帯同家族のメンタルヘルス対策、海外赴任者・出張者への安全配慮義務を果たすために企業が取るべき対応、海外赴任者の慢性疾患への対策など。2022年度はセミナーを5回開催する予定。当面はオンラインでの実施となるが、状況により集合型とオンラインを併用したハイブリッド方式も検討する。

すでに、4月26日に「海外勤務者の健康管理——ウィズコロナ時代の対応」、6月1日には「激動の時代における海外勤務者および帯同家族のメンタルヘルス対応」をオンラインで実施した。

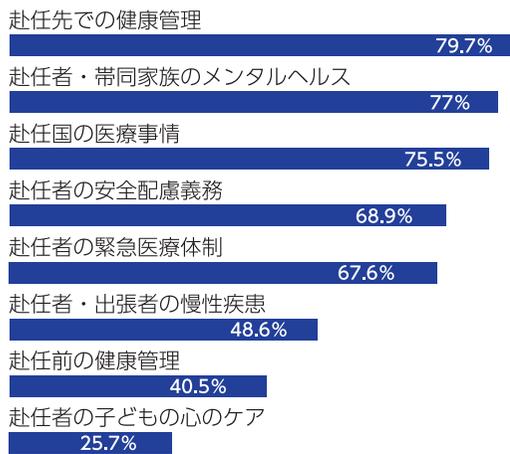
海外健康・医療グループ研究会

海外赴任者・出張者の健康管理は海外で働く社員が健全な事業活動を行う上で重要な課題であるものの、企業が1社だけで十分な対応を行うことは難しい。海外健康・医療グループ研究会を発足し、医療職や事務職を対象とするネットワークづくりと、海外赴任者・出張者の健康管理について、各社が課題を共有し、情報を交換できる場と機会を提供する。

具体的活動内容は、①特定のテーマに関する各社の意見交換、②メンバー各社の事例紹介、③専門家しょうへいを招聘しての研究会メンバー向け講演会の実施などの活動を考えているが、今後参加メンバーの要望を取り入れて決めていく。

研究テーマは、アンケートやヒアリングなどで得た会員ニーズに基づき、①海外赴任者・出張者の赴任先における健康管理、②赴任者・帯同家族のメンタルヘルス、③赴任先の国・地域別の医療事情（医療環境、医療機関、医療制度、医療費等）、④赴任者の安全配慮義務など、より実践的な課題を取り上げていきたい。

研究会活動で取り上げたいテーマは何ですか (複数回答可、n = 95 社)



(その他)

- * 赴任にあたっての、健康状態に基づく渡航可否判断基準の明確化。
- * 海外赴任前の結果に基づき、派遣の可否判定、条件設定(条件付加)を産業医が行っているが、他企業の判定基準・プロセスがどのようなものかを知りたい。
- * 海外派遣可否基準(メンタルの現病歴・既往歴・持病など)
- * パンデミックなどタイムリーなテーマ。

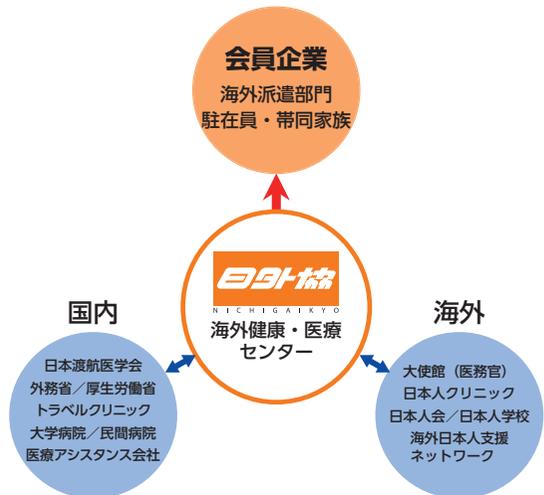
(2022年2月、会員企業240社へのアンケート)

2022年度は4月末から5月に参加メンバーを募集し、6～7月に活動内容とテーマを決めて、7月に第1回の研究会を実施する。年度内に3回の実施を目指す。

会員企業の海外赴任者・出張者の健康管理部門へ必要な情報をタイムリーに提供していくために、関係省庁、学術団体や内外の医療機関、民間企業、海外の日本人コミュニティとのネットワークを深耕・拡大し、新しい価値を創造していきたい。

日外協 業務部 海外健康・医療センター長 安保清史
同・主幹 江上隆司

海外健康・医療ネットワーク



2022年度 海外健康・医療センター タイムライン

